

# 令和4年12月定例教育委員会会議録

日 時	令和4年12月16日（金） 午後1時30分～午後2時39分
場 所	秦野市役所教育庁舎3階大会議室
出席委員	教育長 佐藤 直樹 教育長職務代理者 飯田 文宏 委員 片山 恵一 委員 牛田 洋史 委員 小泉 裕子
欠席委員	なし
委員以外 の出席者	教育部長 原田 真智子 教育指導課長兼 文化スポーツ部長 宇佐美 高明 教育研究所長 丸野 研二 教育総務課長 守屋 紀子 生涯学習課長 水島 一葉 学校教育課長 坂口 憲 図書館長 山本 英範 学校教育課担当課長 上條 秀香 教育総務課課長代理 中村 武史 教職員課課長代理 関野 雅弘 教育総務課主事 栗飯原 里史
傍聴者	なし
会議次第	<p style="text-align: center;"><b>12月定例教育委員会会議</b></p> <p style="text-align: center;">日 時 令和4年12月16日（金） 午後1時30分</p> <p style="text-align: center;">場 所 秦野市役所教育庁舎3階大会議室</p> <p style="text-align: center;">次 第</p> <p>1 開 会</p> <p>2 会議録の承認</p> <p>3 教育長報告及び提案</p> <p>(1) 令和5年1月の開催行事等について</p> <p>(2) 臨時代理の報告について</p> <p style="padding-left: 2em;">ア 報告第10号 令和4年度教育功労者等表彰・教育長表彰の被表彰者の追加について</p> <p>(3) 募集献立「自慢の献立コンテスト」の選考結果について</p> <p>(4) 第4回いじめを考える児童生徒委員会の結果について</p> <p>(5) 義務教育学校研修視察の結果について</p> <p>(6) 「ヤングケアラーに関するアンケート調査」について</p> <p>(7) 令和4年度第2回コミュニティ・スクール連絡協議会の結果について</p>

	<p>(8) 令和4年度第5回ミュージアムさくら塾「秦野の正月行事」について</p> <p>4 協議事項</p> <p>(1) 令和5年度秦野市一般会計（教育費）予算編成について</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉 会</p>
会議資料	別紙のとおり

佐藤教育長

ただいまから12月定例教育委員会会議を開催いたします。お手元の会議次第に沿って進めさせていただきます。

まず、会議録の承認につきまして、御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。よろしいですか。

—異議なし—

佐藤教育長

それでは、ないようですので、会議録を承認いたします。

次に、非公開案件の取り扱いについてですが、3の教育長報告及び提案の(2)臨時代理の報告について、アの報告第10号「令和4年度教育功労者等表彰・教育長表彰の被表彰者の追加について」は、個人情報が含まれるため、また、(6)のヤングケアラーに関する調査の結果につきましては、非公開情報があるため、会議を非公開としたいのですが、よろしいでしょうか。

—異議なし—

佐藤教育長

ありがとうございます。

よって、3の(2)ア及び(6)は非公開といたします。

それでは、次第3、教育長報告及び提案についてお願いします。

文化スポーツ部長

皆様こんにちは。それでは、報告の(1)令和5年1月の開催行事等について、私から報告いたします。資料No.1を御覧いただければと思います。

まず、1月4日水曜日ですけれども、仕事始め式になります。

次に、1月5日木曜日、新年賀詞交歓会がございます。教育委員の皆様には御案内が行っていると思います。出席のほど、よろしくお願いいたします。

次に、1月6日金曜日、定例記者会見がございます。

次ですけれども、1月9日、令和5年秦野市はたちのつどいを開催いたします。今年も感染症対策を行ったうえで、中学校区別に2部制に分けての開催となります。場所はクアーズテック秦野

カルチャーホール、文化会館大ホールということでございます。

次に、1月10日火曜日、小中学校、幼稚園の始業式でございます。

次に、1月14日土曜日、はだの歴史博物館におきまして、第5回ミュージアムさくら塾を「秦野の正月行事」というテーマで開催いたします。講師は、神奈川県立歴史博物館学芸員の新井裕美さんになります。後ほど、生涯学習課長から資料No.8で御説明いたします。

次に、16日月曜日です。2023部活動フォーラムをオンラインで開催いたします。教職員を対象に、東海大学の内田匡輔教授、有識者等を招いて、部活動のあり方についてパネルディスカッションを行います。

次に、17日火曜日と24日火曜日は、ブックスタート事業になります。今回も絵本をお渡しするのみとなります。

次に、1月20日金曜日です。定例教育委員会会議がでございます。御出席のほど、よろしく願いいたします。

次に、翌21日土曜日です。令和4年度の秦野市教育委員会教育功労者等及び教育長表彰式を開催いたしますので、連日になりますけれども、御出席を賜りたいと思います。

また、この表彰式の終了後は、令和4年度のはだのつ子アワードの表彰式を執り行います。感染症対策を行いながら実施いたしますので、教育委員の皆様方にも御出席をお願いしたいと思います。

次に、同じく21日になります。PTA連絡協議会等と共催して家庭教育支援講演会を保健福祉センターの多目的ホールで行います。「子どもの成長を支えるための親としての心掛け」というテーマでございまして、講師は、現在、東海大学児童教育学部助教で元本市の公立こども園の園長をしておりました石井則子さんになります。

次に、1月22日日曜日、図書館において、視覚、聴覚に障害のある方などが楽しめる作品「武士の家計簿」について上映会を開催いたします。

次に、1月24日火曜日から3月26日日曜日までになりますけれども、はだの歴史博物館におきまして、「10万都市をめざした頃—秦野市と西秦野町の合併—」をテーマに企画展を開催いたします。

次に、1月26日木曜日、令和4年度第5回目の園長・校長会を開催いたします。

次に、28日土曜日です。令和5年度新入学外国人保護者の説明会を開催いたします。場所はこちら、教育庁舎でございます。

また、同じく28日土曜日ですけれども、今年度第9回目のはだの生涯学習講座を開催いたします。今回のテーマは「～温泉をもっと身近に～地学研究所職員が教える！温泉の基礎知識と楽しみ方」でございます。神奈川県温泉地学研究所研究員の外山浩太郎氏を招いて講演会を開催いたします。場所は本町公民館になります。

同じく28日ですけれども、図書館において、日本や世界の昔話を語る大人のためのおはなし会を開催いたします。

最後に、28日土曜日から4月9日日曜日までになりますけれども、はだの歴史博物館におきまして、令和5年に秦野市と東海大学の提携が40周年になることを記念いたしまして、東海大学の学生と協力して、「秦野盆地の外の世界一大根・鶴巻の歴史と文化」というテーマで企画展を開催いたします。

1月の開催行事等は、以上でございます。

学校教育課担当課長

私からは、報告事項(3)の募集献立「自慢の献立コンテスト」の選考結果について御報告させていただきます。資料No.3を御覧ください。

11月の教育委員会での協議事項を踏まえ、次のとおり受賞者を決定いたしましたので、御報告いたします。

項番1番の受賞者等一覧を御覧ください。生徒保護者部門から市長賞1名、教育長賞2名、生産者部門では市長賞1名、教育長賞1名、商業者部門からも市長賞1名、教育長賞1名の、7名の方を決定させていただきました。

受賞者等の詳細につきましては、本日お配りさせていただきました広報はだの中学校給食特集号でも御紹介させていただいております。

表彰式は、昨日ですが、市長、教育長に御出席いただき、学校給食センターにおいて行いました。

私からは、以上となります。

教育指導課長兼  
教育研究所長

私からは、(4)(5)並びに(7)について御報告いたします。

はじめに(4)第4回いじめを考える児童生徒委員会の結果について、資料No.4を御覧ください。

今年度最終回となります、第4回につきましても、前回までと同様に、新型コロナウイルスの拡大防止の対策を講じた上で開催いたしました。

3番の内容につきましては、(1) LINEオフィシャルインストラクターを講師に招いての情報モラルワークショップを、また、裏面の(3)になります、市内9中学校区で各小中学校が連携した取組について、それぞれ発表をしております。

また、(4)中学校区ごとの協議及び発表では、いじめを未然に防ぐために何が大切か、何ができるかといったところをテーマといたしまして、今回、学生団体のE4の方々、また保護者、先生方の意見も加えて協議を行い、グループごとに発表しております。

閉会式では、学生団体のE4の代表の高校生から参加いただいた講評をいただき、後輩である小中学生にメッセージもいただいております。会の最後には、本委員会の中学生の委員長からメッセージが参加者に送られ、会を締めくくっております。

今年度も、全体を通しまして参加いただいた代表児童生徒の意識が極めて高く、この会で感じ取ったことを各校に戻り、実りのある実践につなげてくれると思っております。

続きまして、(5)義務教育学校研修視察の結果について、資料No.5を御覧ください。

先進的な取組、義務教育学校の運営等について、文部科学省地方教育アドバイザーの推薦によりまして、本年10月27日に、つくば市立みどりの学園義務教育学校へ研修視察を実施いたしました。全校児童生徒2,000人、所属の職員が100人を超えておりまして、大変規模が多い学校だった。その中で、ICTを活用した働き方改革や小中学校の先生方の乗り入れ授業等も積極的に推進されていること、9年間という期間で一体的なマネジメントが進み、特色ある学校づくりにつながっていること。また、一方で、人口が急増しまして、児童生徒数も、1年生が12クラス、9年生は3クラスとかなりばらつきがあるということで、異年齢交流を特色とするイエナプランを取り入れた教育活動が進まないなど、適正規模の重要性も感じたところでございます。

資料の裏面、5、主な質問項目とその回答といたしまして、(1)から(3)の回答にもございますように、カリキュラムの編成や時間割、活動の形態については、それぞれの実態に応じた工夫が必要であり、また、教員の多忙化解消についても、教育デジタルトランスフォーメーションの推進や部活動の改革が、さらには人口の推移を見通した方向性を見出すことの重要性についてもお話をいただいているところでございます。

6の本市の今後といたしましては、今回の視察を踏まえ、研究

校の設置と学びの基盤プロジェクトの実施、教科担任制の推進を軸といたしまして、施設分離型義務教育学校の設置に向け、今後研究を進めていく予定でございます。

最後に、(7) 令和4年度第2回コミュニティ・スクール連絡協議会の結果については、資料No.7を御覧ください。

資料の前段にもございますが、今年度は6校が研究推進校として協議会の設置に向けて準備を進めており、コミュニティ・スクールの制度、また、よりよい協働のあり方についての理解を深めることを目的としまして連絡協議会を開催いたしました。

今回は、西中学校の田中校長先生を講師としてお迎えいたしまして、本市におけるコミュニティ・スクールの草分け的存在である西中学校の立ち上げの歴史から、実際の運営に当たっての基本方針、また協議会委員の御紹介がございました。

また、西中学校のコミュニティ・スクールの5本柱に沿って、具体的な活動、また成果についても御紹介いただいております。

なお、資料裏面には、参加者の感想を抜粋掲載しておりますので、御確認いただければと思います。

私からは以上です。

生涯学習課長

私からは、(8) 第5回ミュージアムさくら塾「秦野の正月行事」について御報告いたします。資料No.8を御覧ください。

1年を通じて最も多くの行事が行われる12月中旬から立春までの期間、秦野市内を中心に、神奈川県内で行われる正月行事をテーマとして講座を開催いたします。

すす払い、門松、正月飾り、餅つき、正月料理、どんど焼きなど、郷土色豊かな諸行事の様子を紹介しながら、人々が新年にどんな願いを託してきたかを読み解いていきます。講師には、神奈川県立歴史博物館学芸員の新井裕美先生にお願いいたします。日時は、令和5年1月14日土曜日、午前10時から、はだの歴史博物館で開催いたします。

私からは以上です。

佐藤教育長

それでは、以上で終わりですか。よろしいですか。

それでは、教育長報告及び提案について、御意見、御質問ありましたらお願いいたします。

片山委員

資料No.5の裏面(5)ですけれども、「今後は義務教育学校の新設は行わないという方針も出ている」ということですが、この理由についてはどういうことなのか、おわかりでしたら教えてください。

教育指導課長兼

先ほどもお話をさせていただきまして、小中一貫教育というこ

教育研究所長	とで義務教育学校をここで大きく設置しておりますので、その他、人口の流入に関しましては、小中学校の設置で対応すると聞いております。
佐藤教育長	<p>詳しい理由に関しては、私のほうではちょっと把握しておりませんので、もし教育長から補足いただければと思いますので、お願いします。</p> <p>つくば市が小中一貫教育に関する報告書を作成していきまして、参加された委員の管理職の皆さんはそれを読み込んで参加したのですけれども、小学校の高学年で身につく自己肯定感とかリーダーシップ、6年生から、運動会、最高学年で、そこでリーダーシップを発揮してやるのが、やはり小学校の教育としては重要なのだという意見もあるようです。小中一貫になってしまうと小学校の卒業式をやらないような形になるので、その部分で市内の統一的なコンセンサスがまだ得られていないというようなことがまず1点ありました。</p> <p>もう1点は、今、教育指導課長が言われたように、あまりに人口の増加が激しくて長期的な計画が立てにくい、そういう考え方であったと思います。</p> <p>よろしいですか。</p>
片山委員	<p>ということは、今度は（4）ですけれども、「一体型校では教職員の多忙という考察があった」ということですが、一体型になると、どのような点が多忙になるのか、教えていただけますでしょうか。</p>
教育指導課長兼 教育研究所長	<p>一体型ということですので、1年生から9年生まで全て同じ敷地内で子どもたちが生活をしているということになります。そういった中で、それぞれ交流をしていく中で、実際にそこにいる職員が多忙化を解消する中で、実際、職員の数もかなり多いですし、その中で同じ方向を向いて一体型の中で多忙化というところに関しては、困難をきわめているのではないかと推測されるのですが、また報告等があれば、教育長のほうからお願いできればと思います。</p>
佐藤教育長	<p>今は、働き方改革が進まないのではないかと懸念を持つ人が多いということでした。その部分は検討が必要であるという意見が多いようです。だから、働き方改革を進めていく中で、職員の数が多いということで働き方改革が進まないというのは、私は、逆に進めていく必要性が高いような受けとめ方なのです。みどりの学園では職員室の机の上が全部見渡せるのですね。学校の先生の机って、牛田委員はよく御存じかと思いますがけれども、山積み</p>

牛田委員

になっていて前の人の顔が見えないことが多いです。結局、全部タブレット1本でやるので、全部電子化されていて、移動も、このキャスター1個で全部移動してしまう。机の上が自分の城にならない。その部分は、やはりマネジメントではないのかなと思います。たしか私の記憶では、そういうお話だったですね。ICTの活用が本当に進んでいて、職員が打ち合わせすることはあまりなくて、タブレット上で全て統括された感じですか。ですから、100人いても非常に効率的に働いているということでしたね。ほかはいかがでしょうか。

私も資料No.5、片山委員の指摘されたことと関連があるのですが、この資料を読ませていただいた感想や、お尋ねです。お尋ねの場合には、回答できるようなら回答していただければ結構です。

1つは、つくば市立みどりの学園義務教育学校というのは、いわゆる設立の過程、幾つかの小中学校が併合されて全く新しいところに新しい建物が義務教育学校として開校されたのかどうかというのをちょっと感じました。

それから、2つ目は、人口が急増して、児童生徒の数が、1年生は12クラスで、先ほど教育指導課長も言っておられましたけれども、3年生は3クラスだということで、何か人口急増ということを考えていくと、このペースだと7～8年後、10クラス前後の学年が9学年になってくるのかなと。そうすると、かなりのマンモス校になっていって、個々の特性に対応した、いわゆるきめ細やかな教育環境としていささか不安を感じました。

それから、先ほど片山委員がお尋ねになられた、今後新設はしないというのは、私も素朴に、何か理由があったのかなということを感じたところです。

それから、本市に向けての今後の対応なのだけれども、一番最後に、「施設分離型義務教育学校の設置に向け」ということですが、本市の1つの特色として、地理的には小中学校は隣接していたり、あるいは近くに小中学校があったりして比較的進めやすいという地域事情はあると思うのです。ただ、先ほど教育長も言っておられましたけれども、長所、短所があるかと思しますので、十分その辺のところを研究されて対応していただきたいと思っています。

今、教育長からも話が出ましたが、9年間の子どもたちの育ちということを一貫して考えたときに、確かに小学校と中学校での区切りというものも捨てがたいところがあったりしてね。

あともう一つは、やはり小学校1年生から9年間、生活をともにするというのは、交友関係もそのままずっと固められていて、1度しくじってしまうと、ずっとそれを背負ったままだから、気持ちの区切りといたらいいか、そのあたりがどうなのかな。いじめられた子は、ずっと暗い、思い起こしたくないような時間を、自分の気持ちの整理もつかず、ずっと引きずりながら9年間過ごすのも気の毒だなど。途中で転校すれば、それはそれで、義務教育学校だから、別の小中学校に転校すれば、環境が変わって、そういう方法もあるだろうけれども、それぞれ一長一短あるような感じがいたします。

それから、施設分離型ということになってくると、今の小学校、中学校は、各学校に管理職が1名ということになるのですが、これは、もし施設分離型であっても、義務教育学校となったときには管理職は1名になってくるのかなとか、ちょっとその部分をこの資料を読みながらいろいろ感じました。

感じたことをお伝えしたということで、何かお答えできそうなところがあれば、お答えいただければと思います。

以上です。

教育指導課長兼  
教育研究所長

牛田委員からお話いただいた9年間という、私も中学校籍で3年間のスパンで流れているもので、9年間というのが果たしてどういったものなのか想像つかないところもあるのですが、おっしゃるとおり、そういった人間関係を築いていくという部分では、途中で切れ目が、継ぎ目があったほうがいい場合もあれば、環境が変わることによって、リセットされることで、人間関係をさらに築いていかなければいけないということからすると、9年間というスパンが好循環に回っていくということも、それぞれやはりメリット、デメリットが考えられるかと思っております。

また、今お話しいただいた施設分離型の義務教育学校を今後我々が模索していくというところに関しましても、お話があったとおり、今後の子どもたちのニーズの推移ですとか、または隣接している学校で始めていくということになるかと思えます。そういった中で、制度上は、管理職は、義務教育が分離しておりますが、1つの義務教育学校として校長1名という形で進めていくかとは思っております。

以上です。

佐藤教育長

みどりの学園は、谷田部小学校からの分離で新設です。駅からすぐで、広大な敷地に大きな建物がございます。先ほど私、片山委員の質問に曖昧に答えたのですけれども、結局、想定以上の子

どもが集まってきていて計画的な学校建設ができていないという判断を市教委はどうも持っているようですね。

みどりの学園は、先ほど言ったように2,000人いるので、もう次のみどりの森小学校とみどりの森中学校も隣に新たにつくる。義務教育学校の隣にもう新しい校舎をつくるということで、今、たしか学校名を募集しているような状態だったと思います。

それと、今、教育指導課長が言われたように、統括校長が1名で、副校長が1名入ります。つまり、例えば南が丘小中学校を義務教育学校とする場合には、統括校長がどちらかにいて、副校長が片方の小学校にいます。教頭は2名つくということですが、実は先日、私、神奈川県教育委員会にお邪魔してお話ししてきたのですけれども、現行、神奈川県にはその人事上の制度がないということなので、つくってほしいというのを要望してきました。横浜市と川崎市にはあるのですけれども、神奈川県には副校長の制度に対する昇任・昇格のシステムがないということなので、つくっていただくようお願いをしてみました。現状としては、先ほど教育指導課長が言われたような内容だと思います。

それと、教育課程については、やはり最初にお話ししたように、みどりの学園の校長先生は、SDGsとイェナプランに大変関心を持たれていて、今、教育指導課長が言われたように、異年齢交流でSDGsの理念の探究型学習をやりたいと思っていたのですが、それが、結局縦割りが組めないのが非常に苦労されているということでした。その辺が、やはりマネジメントが想定どおりの人数になっていないことと、もう適正規模を超えてしまっています。その原因が報道なのですね。校長室に歴代の文部科学大臣が訪問された全部の写真があって、柴山さんから以降4名の文部科学大臣が必ず視察に来ているのです。それで、学園都市の近くなのでICT教育と英語教育に力を入れているということですので報道が出ていて、それで東京に通勤されている方がほとんどです。ほかございますか。

飯田委員

それでは、資料No.7のコミュニティ・スクールについてですが、小学校7校、中学校4校で、本年度だと6校ですか、研究推進校に指定になるということですが、どの学校も委員の選出に苦労されているということをお聞きしています。今回、前のいじめを考える児童生徒委員会の中で、E4の学生団体のメンバーも参加されたりしているということですが、このコミュニティ・スクール連絡協議会の委員の中にそういった学生というか、中学校を卒業した方とか、そういう若い方の意見とか考えも取り入れるのも1

佐藤教育長

つの方法かと思うのです。その辺、規約とかがわからないのですが、学生はだめだよということがあるのか、そういった若い人たちを取り入れるというお考えをお聞かせ願えればと思うのですが、よろしくお願いします。

では、私から。次年度は、今、PDCAサイクルを役所の予算編成に合わせて大幅に変更してしまして、もう次年度の各指導施策の要望を校長と教育指導課でやってもらっています。次年度は、研究推進校を合わせると、小学校が12。13校中、やらないのが1校だけという状況です。中学校が7校ですね。ですから、来年の今ごろには、もう19校で設立されるだろうと。

委員の選出については、学生が良いか悪いかというのは後で調べますけれども、基本的に、各学校の校長先生が考えをして、こちらと相談ということですが、確かに、言われるように若い方が入っても良いと思います。ただ、E4の皆さんは、学生といっても高校生なので難しいですが、大学生とか、若い起業家の方も今秦野市にはいられますので、そういった方に積極的に声をかけていくというのは、貴重な御意見なので、また各校と調整してもらいたいと思っています。

では、教育指導課長から、学生が良いかどうか、もしわかれば、後ほど報告してください。

よろしいですか。

飯田委員

はい。

佐藤教育長

ほかはいかがでしょうか。

片山委員

E4について説明をお願いします。

教育指導課長兼  
教育研究所長

学生団体で、主体は高校生が多いと聞いております。また、その高校生をサポートする意味で、成人の一般の方にもサポートしていただきながら、市内で若い世代の方に活動していただいて、ボランティア活動も含めてですが、さまざまところで活動に協力いただいているということでございます。

佐藤教育長

たしかJCさんが音頭をとってやられていると。そうですね。大体、中学校の生徒会のOBとか、リーダーシップのある子が育っていて、それをJCさんが束ねていて、ボランティア団体として活動していると。

生涯学習課長

本町地区のまちづくり委員会などにも、たしかコミュニケーションしていて、拠点づくりをやっている。市長もE4には大変関心を持たれていて、実は報徳サミットで、昨年、オンライン開催のときに、秦野市はE4の代表の方でしたかね、生涯学習課長。

そのとおりでございます。

佐藤教育長

非常に珍しい取組だと思っています。

ほかにはいかがでしょうか。

小泉委員

1月22日に行われるバリアフリー映画会ということで、障害者の方にも視点を当ててこういう映画会を開いていただけるということは、その方たちがまた図書館にも足を運びやすくなるでしょうし、いろいろな意味で門戸を開くというのはとても大事なことだなと思っています。

これは今回単発でされるのか、または定期的にこれからも計画されていくのかということ、それから、視覚に障害があられる方に、どのような周知方法を考えていらっしゃるのかというのがちょっと気になりました。点字等で広報を配るようなことも聞いたことはあるのですけれども、その辺のところをよろしく願いたします。

図書館長

ありがとうございます。今回、初めてということになると思いますが、視覚もしくは聴覚に障害があるような方を対象にした映画会を開催します。

特に視覚に障害がある方については、映っている映像が見えない、もしくは見づらいということになりますので、例えば役者さんがセリフとしてしゃべっているものについては耳から入ってきますけれども、それ以外の、例えば今どういう場所において、どういう状況で役者さんが演技をしているのか、そういった情景などを含めてナレーションがついているような形になっています。もちろん一般の障害のない方についても御覧いただけるようなものにはなっていますが、視覚に障害のある方については、そういった仕様のもになっています。

今後、定期的にやっていくかというところについては、今回やってみた状況を見て、できたら、私としてはやっていきたいと思っています。

また、周知につきましては、障害者の団体などを通して、あとは、秦野駅近くに「ぱれっと・はだの」というところがありますので、そういったところにもお願いしながら周知に努めていきたいと考えています。

以上です。

佐藤教育長

生涯学習、図書館は大変興味深い開催行事が多くて、私もすごく楽しみにしていますので。

よろしいですか。

小泉委員

はい。ありがとうございます。

佐藤教育長

ほかにはいかがでしょうか。

牛田委員

戻ってしまうのですが、資料No.7のコミュニティ・スクールのことです。今、教育長から来年度は小学校が12校、中学校7校ということで、大分各学校が意欲的に進められているという感触で、とても良いことだと思っています。

ただ、課題として、2ページの一番最後のところに、いわゆる職員の多忙感につながらないかという、この辺のところは1つ課題として書いてあるのですけれども、私は、そういった意味では、コミュニティ・スクールを進めていくに当たって、どうしても学校が主体とならざるを得ない状況というのは私も理解できるのです。そうは言っても、事務局的な運営の主体が学校に全てのしかかってくるのは、何とかうまく業務分担といいたまいますか、その辺のところを地域とか、あるいはここで言うCS関係者ということで、ディレクターとかコーディネーターの役割がとても大きいと思うのです。こういった立場の人が各学校に、コミュニティ・スクールに配置されていくといいかと思うのですが、そのあたりは現状としてはどうなのか、あるいは将来的にはどんなふうにお考えになっているのか、気になったのですが、いかがでしょうか。

教育指導課長兼  
教育研究所長

今お話が出たとおり、ディレクター、コーディネーターは今年も数名、御協力いただいています。今お話があったとおり、今後、学校数がどんどん増えていきますので、やはり立ち上げのときに負荷がどうしてもかかってしまうという部分もございます。ある程度、学校のほうで形ができてきますと、実際会議を行うというのはどうしても学校でやっているケースが多くて、学校が音頭をとる形になると思うのですが、実際のコミュニティ・スクールの取組自体は、もちろん地域の方と協力しながらやっていただく形になります。そういったところで、つなぎ役としてコーディネーター、ディレクターというところは、学校の今後の増え方も含めて検討していく必要があるかと思っております。

ただ、数も増えていっていますので、今後、場合によっては、1つの中学校区で1つということも、統合も含めて精査していくことも視野に入れるべきだとは考えております。

以上です。

佐藤教育長

私の記憶では、私は今、学校運営協議会に可能な限り出て部活の説明とかをさせていただいているのですけれども、渋沢でやっていて、堀川と西小学校にいられたので、市民の方が3校か4校、事務局でやられていますね。元PTA役員の方ですがすごく前向きにやっていただいております。それと、退職された一寸木先生も3校ぐらいやられているのかな。

牛田委員

なので、今、牛田委員が言われたように、コーディネーターがきちんと機能しているというのが現場の校長先生方に伝わって、加速度的に広まっていると思うのですけれども。多忙化は一番最初から課題だったので、そこはもう、小中1つにすることも含めてしっかりやっていかなければいけないと思っていますので。

今後の見通しについてお話を聞けたので良かったと思います。ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

資料No.1、小泉委員が先ほど指摘されたバリアフリー映画会、私もこれはよい試みだなと感じました。ぜひ、図書館としても今、できればシリーズ化してこれからも企画していきたいということです。人数が多いからということよりも、やはりニーズがあれば積極的に対応してほしいと。こういうものは人数ではないからね。こういった場をつくって準備しておくことが、私は市の姿勢として大事なことだと思います。とてもよい試みをしてもらっているかと思っています。

それと、同じく図書館ですが、大人のためのおはなし会、これも今回初めてではないでしょうか。私は、以前にもやられたものかどうかちょっとわかりませんが、この「大人のためのおはなし会」というネーミングも、何か興味をそそられるような事業名ですごく関心を持ちました。ぜひとも、これからも企画をしていただけたらいいかと思っています。

今、教育長が言われたとおり、生涯学習課でもいろいろ企画展とかさまざまな取組をされていて、本当に準備に大変だろうと思いますが、いろいろ頑張っておられるなという感想を持っています。

それで、1ページですが、戻りますが、部活動フォーラムのことについてお尋ねしたいのですが、オンラインで開催するということですので、市内の教職員を対象にということは、月曜日なのですが、15時から17時、この時間帯に各学校にオンラインで配信されて、いわゆる各学校の先生方が聴取者として参加できる、そんなシステムなのかどうなのかということ。一般的にはパネルディスカッションというと、会場があつて、来場者があつて、来場者の方から場合によっては質問されたりというやりとりの中で進められていくと思うのですが、今回の場合は、「市内の教職員を対象に」ということは、オンラインで各学校に配信されて、そして、各学校の先生方もこの様子を知り、また質問等、意見等、参加されるような、そんなフォーラムなのかということ。

それから、このコーディネーターは東海大学の内田先生がやら

佐藤教育長

れるのでしょうか。コーディネーターがどなたなのか、進め方が難しいだろうという感想を持ちました。

それと参加者、パネリストですが、「有識者及び市P T A連絡協議会の代表者」ということも書いてあるのですが、部活動は、運動部だけではなく文化部もそうですが、とりあえず運動部の顧問の先生方の負荷が文化部に比べると大きいと思うので、将来的には土日の部活動については地域に移行するという流れもあるので、秦野市のスポーツ協会の代表者などがこれに参加されることはないのか、まだこの時点では考えられていないのかどうか。もう既に、ここには載っていないけれども、秦野市のスポーツ協会の関係者なども実は参加を得ているというのであれば、それはそれで結構なのです。将来的に地域に移行するというのであれば、そういった団体の方々にもお声がけするのも必要なことかと感じました。

以上です。

今、東海大学の内田匡輔教授以外に、流通経済大学附属柏高校の中高一貫教育推進部長の八重樫通先生、これはつくばの谷田部東で地域部活動を率先して先駆者としてやられた方で、今年退職して私学のほうに御就職されたのですが、その方がお一方。それと、市P連の会長の諏訪さん、そして、中体連の会長の加藤校長先生で、パネリストを束ねるのはうちの教育指導課長でございます。

1部が、八重樫先生がぜひ秦野でお話をお願いしたいということなので、かなり報道等でも出ていらっしゃる方で、非常にバイタリティーのある方です。先日オンラインでミーティングさせていただいたのですが、3時から4時が管理職、校長、教頭向けの講演会です。その後、4時から、うちの指導主事のほうで行政説明を10分間。その後45分間、教育指導課長が司会でパネルディスカッション。最後に質問を受けると。基本的には、各学校の先生方はオンラインで参加できます。各校で聞けますが、一応、希望があれば、日本中どこからでも受けようかと思っています。今、部長のほうで広報もしていただいている、秦野市の取組をしっかりと示していこうということです。

それと、文化部も対象にして今回お話をします。今、スポーツ庁と文化庁に、来週、私、文部科学省に行かせていただくのですが、最後に指導、助言をお願いしようかとは思っています。

システマ的にはそうで、あと、スポーツ協会のほうは、もう既に協働的にやっていますので、小田原市のスポーツ協会なども私

教育指導課長兼 教育研究所長	<p>どものほうに視察に来られていますので、スポーツ協会にもお話を して、地域指導者の方が御覧になりたい、参加したいということ であれば、そこでオープンでやっていこうと思っています。</p> <p>教育指導課長、よろしくをお願いします。</p> <p>ほかはいかがですか。</p>
佐藤教育長	<p>先ほど飯田委員からの御質問で、学校運営協議会の委員で学生 はというお話がありました。学校運営協議会の規則の中には、学 生云々という記述は特にはございません。委員の選出に関してと いうところについては、地域住民ですとか学校長、教職員、学識 経験者で、場合によって、「その他、教育委員会が適当と認める 者」というような項目もありますので、必要に応じて、そのの項 目で人選することは可能ではないかというような状況です。</p> <p>以上です。</p>
生涯学習課長	<p>そういう意見があったということは各学校にはお伝えして。</p> <p>あと、私が聞いて申し訳ないですけども、1月28日の生涯 学習課の講演ですが、「秦野盆地の外の世界」という言い方は、 特段これは大丈夫なんですか。「外」という言い方って、特段心 配はないのですか。何か「盆地の外」という言い方が、割と使わ れているのですか。</p> <p>タイトルが「秦野盆地の外の世界」ということですが、秦野市 が秦野盆地と大根・鶴巻地区から成っているということをタイト ルに例えています。</p> <p>ちなみに、今回の企画展ですが、東海大学ティーチングクオリ フィケーションセンターの提携事業の一環ということで、学芸員 の課程を履修する学生と連携する企画展になっています。</p>
佐藤教育長	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>ほかはいかがでしょうか。</p>
牛田委員	<p>資料No.4のいじめを考える児童生徒委員会の結果報告ですが、 ここで15回にわたったのでしょうか。私も、今年の点検・評価 がある中でコメントさせてもらったところですが、これまでの取 組が各学校の子どもたち一人ひとりにどのように伝わっているの か、あるいは子どもたちがどういう取り組み方をしているのか、 どの程度この事業の中身が市内の子どもたちに浸透しているのか どうか、そういったことを検証して、さらにより良いほうに発展 していけたらいいなと期待しています。</p> <p>そういう中で、先ほど飯田委員も指摘されていましたが、 地域の学生団体E4ですか、今回こういった学生さん方にも協力</p>

を呼びかけて、報告の中にも書いてありますが、意見も加えて協議を行った、あるいはメッセージをいただいたということもありました。この学生団体は高校生が主体という話が今、教育指導課長からもあったので、年齢も近いし、共感できるものをたくさん持っていられると思うのですね。ぜひ、この委員会と今後もコラボして、子どもたちにうまく浸透していくというか、市内の子どもたちに心打たれるようなメッセージ、そんなものが伝わっていけば良いと思っています。

この歴史ある児童生徒委員会を軸にして各学校でさまざまな取組がされている。これは私も承知しているところなのですが、それはそれで各学校で大事にこれからもしつつ、何かほかに、子どもたちに対して仕掛けていく、そういう環境づくりを今度も何かできないのかと思ったりもしています。ぜひ、また次年度に向けていろいろ創意工夫されて、さらにより良いものに発展していったらいいと思います。

本当に関係する先生方、企画から準備、当日で大変だったと思いますが、よろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

佐藤教育長

牛田委員、議会で逆質問が今年あって、今の牛田委員にも質問したいのですけれども、今の場合、いじめを考える児童生徒委員会を、もう少し子どもたちの意見を発信する場にしていったらどうかというところえでよろしいですかね。実は、私もちょっとそんなことを思っているのですけれども、今の御発言というところ、もう少し子どもたちの意見を外に出していったほうがいいのかという、例えばまちづくりの意見とか、秦野がこんなまちになるといいなというような思いも含めてなのですか。牛田委員、いかがですか。すみません、逆質問してしまいました。

牛田委員

もちろん、私は以前、実は当時の近藤課長もそういったことを感じられたようで、どこかでこのいじめを考える児童生徒委員会を1度検証して、未来につないでいく、そういった機会を設けなくてはいけないということをおられたのですね。私もそれに同感だったので、今、教育長が言っていましたけれども、もちろん秦野市民の一人としてまちづくりに参加できるような何か発信ができないかと、これは本当に最高であってね。

いじめという言葉にこだわらなくてもいいのではないかと、前にも言ったのですが、もう少し幅広くこのネーミングを考えられてもいいのではないかとことを言ったことを記憶しているのです。ですので、まさに今、教育長が言われたことと重なる部分

があります。そういったこととあわせて、子どもたち一人ひとりが、各学校を舞台にして、この事業にどう絡んでいくのか、そこが難しいところなのですね。ここでやったことが、それぞれ各学校に持ち帰って、伝達をして、そして取り組んでいくということで今あるのだけれども、各学校の子どもたちが主体的に絡んでいけるような、そういう仕掛けができるといいかと思ったりするのです。

じゃ、何ができるかという、例えば学生団体のE4の方々の協力をいただきながら、ビデオメッセージをつくって、学年集会とか学校集会、あるいはクラスタイムを使ってもいいし、そこでそのビデオメッセージを通じて意見交換して、いじめに限らず、まちづくりも含めて、その意見を吸い上げてこの会に上げていくというような方法もあったり、あるいは、例えば東海大学の演劇部などの方がやられれば演劇部でもいいし、E4の方でも構わないですが、寸劇か何かをつくって、夏休みに短期集中でつくって、それを各学校に配信して、各クラス単位で意見交換をしたりとか、何か一人ひとりがこの事業に絡んでいかれるようなことができれば良いかと思えます。

佐藤教育長

私の質問でしたから、すみませんでした。ありがとうございました。その趣旨を、御意見をよく受けとめて、また施策を検討して行ってください。

ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、次に入ってもよろしいですか。

協議事項に入りたいと思います。

令和5年度秦野市一般会計（教育費）予算編成についての説明をお願いします。

教育総務課長

令和5年度秦野市一般会計（教育費）予算編成についてです。よろしくをお願いします。

協議事項（1）「令和5年度当初予算要求の状況（令和4年11月11日現在）」という資料を御覧ください。各課の要求額等をまとめた一覧になります。

教育部と文化スポーツ部の合計といたしまして、令和5年度当初予算要求額の総額が39億9,247万8,000円、令和4年度、今年度の当初予算額と比較いたしますと8億4,418万9,000円、26.8%の増となっております。

今回の要求に当たりましてマイナス5%のシーリングが設定されている業務運営費ですけれども、表の真ん中ぐらいの白抜きされているところになります。こちらの金額が14億2,526万

5,000円で、今年度当初予算に対しまして2億1,263万1,000円、17.5%の増となっております。

この要因といたしましては、細かく見ていただくと、学校教育課は36.1%ということで非常に大きく伸びておりますが、こちらは総合教育会議、また教育委員会会議等で御報告させていただいております学校のネットワークシステムの更新に係る経費に関するものが伸びているところが大きく作用しております。

また、教育研究所が115.1%というのは、さまざまな国庫補助金をいただきながら事業をやっているのですけれども、その国庫補助金の見通しが立たないところで、国からの財源が減っていることで、一般財源の市の持ち出しが増えているところでの伸びということになっております。

また、生涯学習課につきましては、震生湖の100周年記念事業、また施設の修繕費等が増えているということが要因となっております。

次のページ以降につきましては、重要施策ということで各部の取組をまとめたものになっておりますので、御確認いただければと思います。

最後に、今後の予定ですけれども、来週になりますが、12月21日に政策部長査定がございます。それで、年明け早々に示達がございまして、それを踏まえまして、1月24日の市長査定を経て予算が確定していくという流れになります。

説明は以上となります。

佐藤教育長

御質問等ございますでしょうか。

—特になし—

佐藤教育長

よろしいですか。

それでは、このような形で進めさせていただきます。

その他の案件はございますか。

—特になし—

佐藤教育長

特にないですかね。

それでは、会議を非公開とする前に、次回の日程調整をお願いします。

事務局

それでは、次回の教育委員会会議の日程ですが、1月20日金曜日、午後1時30分から、こちらの会場で予定しております。よろしく願いいたします。

佐藤教育長

それでは、予定のほう、よろしく願いいたします。

ただいまから会議を非公開といたしますので、関係者以外の退席を求めます。

| 一關係者以外退席一